

第 44 回全史料協全国（沖縄）大会宣言

平成 30 年（2018）11 月、私たちは「アーカイブズ再考—その価値と活用—」をテーマに掲げ、ここ沖縄県那覇市において、第 44 回全史料協全国大会を開催しました。その成果を踏まえて、次の 3 点をここに宣言します。

1 アーカイブズは、唯一無二の存在である！

国と地方が日々作成する文書・記録のうち、時を超えてその営みを跡付け、歴史的な説明責任の根拠として保存・公開する歴史公文書。そして、これら歴史公文書を含み込んだ、その時代時代の人々の暮らしや経済活動、文化的営みなど社会全体の諸相を記録する歴史的な記録史料群。私たちは、これら総体を、社会にとって有用なアーカイブズと考えます。

アーカイブズが「説明責任の義務及び透明性ある行政経営活動の支えとなる、権威ある情報源である」と同時に「世代から世代へ引き継がれる唯一無二にしてかけがえのない文化遺産である」（2010 年 9 月、ICA（国際文書館評議会）円卓会議オスロ大会採択「世界アーカイブ宣言」）という理念は、21 世紀の今日において、民主主義社会の根幹をなす世界共通のものとなっています。

私たちは、アーカイブズを後世に伝える営みを担い、責任を負う立場から、アーカイブズが広く人類にとっての文化遺産であり受け継がれていく必要があることを、普遍的な理念として共有していきたいと思えます。

2 アーカイブズを扱う専門職（アーキビスト）が必要である！！

現代日本において、アーカイブズは、社会全体として適正に引き継がれ、広く公開・活用されているとは必ずしも言えない状況にあります。

重要と考えられる文書・記録の引き継ぎからの意図的な除外や書き換え・改ざんが指摘される事例が頻発し、適正な公文書管理という課題が話題にのぼらない日はないとさえ思える昨今の状況。あるいはまた、これもしばしば指摘される、戦時記録・文書をはじめ社会的に重要な事象に関する記録の不存在や、存在したとしても黒塗りでしか目にすることができない実態。さらには、すでに歴史的記録として数々の文献に引用され、その重要性は疑問の余地がないと思われる著名な日誌資料ですら公的機関から廃棄される現実があります。

歴史的な説明責任を含む歴史的・文化的視点から記録史料の内容を見極め、選別して保存管理を行うアーカイブズの専門職（アーキビスト）を、それぞれの組織・機関において、さらには社会全体として十分に位置付け、配置することこそが、こういった事象を引き起こさないための核心であると考えます。

アーカイブズを担う専門職の育成・配置の早急な改善は、国民的な課題です。

3 アーカイブズは国民の権利を守る !!!

私たちはアーカイブズに携わる者として、その社会にとっての価値、行政機関はもとより社会全体にとっての必要性・重要性を、社会的な共通認識としていく必要があると考えます。

大会開催地・沖縄は、先の大戦での過酷な地上戦と、その後の 27 年間に及ぶアメリカの統治を経験しました。そういった歴史を経てきた沖縄では、県公文書館において沖縄県の公文書のみならず、アメリカ施政権下の琉球政府文書、アメリカ国立公文書館をはじめ海外機関から収集した関係資料、民間から収集した沖縄関係資料などが、広く保存・公開されています。これら沖縄県のアーカイブズは、沖縄という地域が経験してきた歴史を明らかにし、そこに生きる人々の権利を守り根拠付ける記録史料群として日々活用され、確固たる存在となっています。

こういった沖縄の経験からも、アーカイブズは有用かつ価値あるものであり、保存・活用される必要があることがわかります。アーカイブズは、人々が生きてきた命の証^{あかし}であり、あまねく国民の権利を守るものです。

平成 30 年 (2018) 11 月 9 日

第 44 回全史料協全国 (沖縄) 大会